

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100228		
法人名	有限会社なんくる		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームたけとんぼ		
所在地	沖縄県那覇市国場911-2		
自己評価作成日	令和元年 7月13日	評価結果市町村受理日	令和元年 10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=4790100228-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=4790100228-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和元年 8月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の入居前の生活スタイルを可能な限り施設でもできるように努め本人の能力に応じて食器洗い・洗濯干し・洗濯たみ・花の水やり等を職員と行い能力維持に努め近隣の他種企業と協力し地域の祭りを行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は事業開始から10年を経過し、身体的拘束等の適正化のためのマニュアルを整備し、職員と読み合わせをして周知している。事業所の方針として、頻繁に外出され家族が対応に苦慮している方などを受け入れることとし、現在3~4人の利用者がたびたび外出するが、職員と一緒に付いていく支援が行われている。一人ひとりの外出の特徴を計画作成担当者が把握し、ソワソワするとタイミングよくパズルや絵本を用いて興味をそらす工夫をし、外出を見守るなどの支援方針を職員が共有し、実践している。利用者とともに日常的に地域に出かけ、近隣のグループホーム主催の朝市に毎月参加し、こくば夏祭りは主催者側として準備から関わり、散歩がてら道路のごみ拾いを行っている。地域の傾聴ボランティアやウクレレ演奏、月2回の踊りレクなどのボランティアを継続して受け入れ、事業所主催の敬老会には、就労支援事業所の歌や地域の方の三線演奏、地域包括支援センターの手話ダンス等が参加している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みんなで話し合いをして理念を決め共有して実践できるように努めている	理念の共有と実践として、これまで法人の理念で運営していたが、今年から事業所独自の理念を職員とともに考え、掲示されている。これまでに暮らしてきた状況と同様な支援を事業所でも行っていくことを職員と共有し、晩酌をしていた利用者には日々ビール等を提供するなど実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の他事業所と毎月交流を行っている。毎年祭りを行っている。	事業所と地域とのつきあいとして、近隣のグループホーム主催の朝市に、毎月利用者と参加し、3年前から地域の企業と共同で「こくば夏祭り」を開催し、利用者も参加している。毎日外出したい利用者と散歩がてら地域の道路のごみ拾いや傾聴ボランティアを3~4年前から受け入れ、ウクレレ演奏、月2回の踊りレクなどを継続実施している。昨年の敬老会は、就労支援AIKOの歌や三線演奏、包括の手話等が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他事業所と合同で認知症の勉強会を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見等を参考にしているが実践できてない	運営推進会議を活かした取り組みとして、全4回実施し、行政や地域包括支援センターの職員や利用者、家族、地域代表等が参加している。事業所の活動報告や事故報告、身体的拘束の適正化について等が報告されている。報告、要望、助言等が記録されているが、議事録は委員への配布や公表がされていない。	運営推進会議は、基準条例により年6回以上の開催や委員等への議事録の配布、及び事業所内での公表が規定されていることから、その実施が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者のケアサービスで意見交換をしている	行政職員は運営推進会議に参加し、市グループホーム連絡会で情報交換し、行政からは研修等の連絡がある。地域包括支援センターとの関わりとして、足湯の実施、認知症カフェ、がんじゅう体操教室で交流している。家族向けの認知症介護教室など、その都度の案内がある。運営推進会議で那覇市のSOSリングやボランティアポイント制などの説明がされている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を掲示したりマニュアルの読み合わせをしている	身体的拘束をしない方針として、身体拘束の10項目を掲示し、身体的拘束廃止のためのマニュアルを職員と読み合わせをして周知、共有に努めている。特に外出をしたがる方を受け入れ、行動を規制せず自由に生活できるように支援している。利用者の行動に合わせて支援し、散歩やごみ拾い、ドライブ等を行っている。	身体的拘束等の適正化のための指針(マニュアル)は整備されているが、3か月に1回以上の検討会議の開催、及び定期的な(2回以上)研修の実施が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体観察に注意を払い防止に努めている。	虐待の防止の徹底として、運営規程に「虐待防止のための措置」を規定し、管理者は虐待防止や身体的拘束廃止のためのマニュアルを職員と読み合わせしている。毎月の職員ミーティングで周知するとともに、その後職員のストレス軽減のため親睦の場を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問等がないか確認しながら行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	関係者とコミュニケーションを図りながら意見交換を図っている	運営に関する利用者、家族等意見の反映として、利用者は殆んどの方が意思表示ができるので、日々の介護の関わりの中で要望等を聞いている。北部の勝山出身の方の希望で、北部を訪問している。来訪時の家族から「在宅時は毎日晩酌をしていたので、ホームでもビールを飲ませてほしい」との要望で、主治医と調整し、毎日晩酌をさせるなど、要望等を反映させている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月代表や職員ミーティングを行い意見交換をしている	運営に関する職員意見の反映として、管理者は毎月のミーティングで聞く機会があるが、日常的に随時聞いている。職員から花壇の担当として手入れをしたい等の申し入れがあり、調査当日、オクラの苗の植え付けをしていた。利用者が使うボールなどの破損には購入等の対応をしている。運営に関する職員からの要望があれば前向きに対応している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい職場環境に努めている	就業規則は法人で作成されているが、確認はできなかった。勤続年数に応じた昇給や有資格者手当や夜勤手当等が支給されている。週休2日が実施されているが、9人中5人が完全実施され、3人が7日の執行となっている。健康診断は全員が1回実施しているが、夜勤者は2回目が実施されていない。年休の取得については実施しやすいように配慮している。	夜勤者の健康診断については、労働安全衛生法で、年2回の実施が規定されており、夜勤者の健康診断の追加実施が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	情報を集め職員のスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会に参加して情報交換を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を傾聴したり要望を受け止め安心できる関係に努めている		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩み等を傾聴して関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体の変化にいち早く気づき受診の際必要な支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望を傾聴し受け止め信頼関係を築いていけるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化を報告して連携や協力し合い利用者を支えて行けるように努めている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	北部出身の要望で北部までドライブ等を行う	馴染みの人や場との関係継続の支援として、本人や家族からこれまでの生活歴や職歴等を聞いている。教会関係者が定期的に訪ねてきて交流をしている利用者もいる。勝山出身の利用者の要望で、ふるさと訪問で北部にドライブしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の位置を変えたり利用者同士が楽しめるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会等をして相談に努める		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の情報を集め意向に合うように努めている	思いや意向の把握として、入居時に丁寧なアセスメントが実施され、本人や家族の思いが把握されている。他施設に入所している妻に会いに行っていた夫が、当ホームに入居したため、今度は妻をこちらに面会に来させたいとの意向があり、実施されている。利用者の晩酌についても家族からの要望を把握し実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報を集め継続できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で情報共有して現状の把握に努めている		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い主治医の意見を踏まえ三者で意見を話し合い現状に即した介護計画を作成している	職員は担当制を実施し、常に利用者の状況を把握している。担当は月1回利用者のモニタリングを基に、カンファレンスを開催し、利用者の状況を職員全員で情報共有に努めている。計画作成担当者が専任のため利用者の状況を細かく把握できている。利用者の急変時は担当者会議を開き、介護計画を見直し、家族、主治医、職員と情報共有を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送り等を通して職員間で情報共有しながら計画に見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に出来るだけ応えるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店に買い物に出かけるように努めている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康チェックのデータや生活状況を説明している	かかりつけ医の受診支援として、かかりつけ医が決まっている利用者は、受診時は家族が付き添って受診しており、訪問診療を受けている入居者が4人いる。受診の際には主治医に聞いてほしいことを文書で家族に依頼し、受診結果については返書、及び口頭での報告を受け、職員へは申し送り帳に記載し、情報共有をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り等や看護記録で情報共有し支援できるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と情報交換を行い退院に向けた支援に努めている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で関係者で話し合いを行い今後の支援に努めている	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援として、「入居者の急変時や重症化した場合における対応に掛かる指針」が作成されている。医療的行為が必要な場合の対応が困難になることについて、家族に説明し、同意を得ている。利用者が重症化した場合は状態変化等を常に家族に連絡し、系列施設への紹介を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加させ実践力を身に付けるように努めている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼夜想定での訓練を行っているが近隣の協力は得られてない	災害対策については、避難訓練は昼間1回の実施で、職員と利用者のみが参加し、近隣住民の参加は得られていない。自立している利用者がほとんどで、避難経路は道路に面しての1方向になっている。消防署への通報システムは設置されているが、食料等の備蓄が1日分となっている。災害対策のマニュアルが作成されていない。	避難訓練は昼夜想定で年2回の実施が規定されており、夜間想定での訓練の実施が望まれる。地域住民との協力に向けた取り組みや3日分以上の備蓄、災害対策マニュアルの整備が望まれる。



自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重して対応している	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について、居室のドアは、利用者が部屋に不在時も閉まっており、トイレ使用時はドアを閉めるなど、プライバシーに配慮している。トイレへの誘導の際も言葉使いなど周りへ配慮した声かけの対応がされ、利用者尊重の支援が確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる範囲内で対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	能力に合わせて個々で活動している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回散髪支援を行っている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやもやしのひげ取りを職員と行っている	食事を楽しむことのできる支援については、食事は3食とも、事業所の職員が調理している。利用者の要望や好みを聞いて朝食をパンにするなど、1週間の献立に取り入れて提供するなど工夫している。食事は利用者のペースに合わせて見守り、ほとんどの利用者が自立しており、普通食が提供され、職員も一緒に同じ食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きな物の情報収集を行い状況に合わせて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況に応じて支援している		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを職員間で共有しトイレで排泄できるように支援している	排泄の自立支援については、利用者のパターンを把握し、職員が声かけしたり、利用者からの合図でトイレ誘導をし、昼間は利用者全員のトイレ排せつを支援している。半数の利用者が綿パンツ使用である。夜間は利用者の状況に応じて、長時間用オムツの使用やリハビリパンツの使用での排せつ介助を行い、睡眠を妨げないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を追加したり看護師に相談を行っている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状況に合わせて支援している	入浴を楽しむことができる支援については、入浴は週3回と決まっているが、見守り程度の利用者には本人の入りたいときに入浴できるように対応している。一部介助の利用者がほとんどで、入浴拒否の利用者は翌日に替えたり、拒否理由によっては対応する職員を変えるなど、誘導の仕方を工夫して支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	体調に合わせて支援している		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬の変更等があれば職員間で情 報共有を行っている	利用者の薬は薬局の薬剤師の協 力で、個別に専用のケースに1週 間分ずつ入れ替えている。薬に 変更があった場合はケアマネが 確認し申し送り帳に記入して、 情報を共有している。過去1年 間に3件の誤薬が発生し、誤薬 発生時は、主治医・家族へ連絡 して様子を見守り、事故報告書 を作成している。服薬マニュアル がなく、職員に対しては口頭 での注意にとどまっている。	誤薬再発防止対策検討会議の 開催、及び会議結果の職員へ の周知、さらに、早急な「服薬 支援マニュアル」の作成が望ま れる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	利用者の好みに合わせて楽しむ ように支援している		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけるよ うに支援している	利用者の状況に応じてできる範 囲で支援している	日常的な外出支援については、 一日に何度も外出する利用者 に対しては、止めるのではなく 見守りながら付いて散歩し、時 には道路のごみ拾いを一緒にし ている。近隣のグループホーム 主催の朝市に毎月参加し、奥武 島へ天ぶらを買いにドライブへ 行くなど外出の支援をしている。 また利用者の希望でスーパー へ買い物に行くなどの支援をし ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	利用者の状況に応じて支援して いる		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年10月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。自分の携帯で家族と連絡をしている		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手工芸展示している	天井が高く天窓があり、明るく広々として清潔感があり、「次亜塩素酸水」の加湿器が4か所に設置されている。壁には利用者の外出時の写真や手芸用品が掲示されている。トイレやお風呂場も清潔感があり、事業所全体が明るく、利用者の雰囲気も落ち着いている。壁の装飾については、「家庭的」な趣旨を踏まえて工夫を期待したい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファ設置して個々のペースで過ごせるように支援している		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや写真等を飾り居心地よく過ごせるように支援している	居室には壁はめ込み式のタンスやベッド、クーラーが備え付けられている。衣類や布団等もタンスに収められ、一部の利用者の居室には仏壇やサイドテーブルを置いているが、整然としている。居室は、ベランダ側は掃き出しで出入りができる。以前は各居室に「ブザー」を設置していたが、現在は鈴を鳴らしたり、手をたたいて知らせている。各室に時計や暦の設置を期待したい。	「ナースコール」の設置がない場合は、高齢者虐待の「介護の放任」と認定されているので、緊急に「ナースコール」の設置が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し安全に移動できるように支援している		